

本の修理ボランティア養成講座

八女市立図書館 2階研修室

第2回 6月21日(木)

- ◇前回の総評とポイント、各自仕上がりの確認
- ◇前回の復習
- ◇和紙を使ったやぶれ修理
- ◇八女の和紙と修理について(映像資料)
- ◇見返しゆるみの修理

前회가とても楽しい雰囲気だったので、担当職員は第2回をわくわくして待っていました。受講生のみなさんはどうでしょう？

本日は、前回各自が行った修理の仕上がりを確認しながら、よりよい修理になるためのポイント解説から入ります。そして、そのポイントを踏まえたうえで、再度ページ破れの修理に取り組みました。前回よりさらに質問が飛び交い、みなさんの熱意が伝わってきます。



次は、和紙を使った修理の体験です。前回各自で作った「くいさき」という和紙製の部材と、でんぷんのりを使用します。薄くて丈夫な八女の和紙は、本文の上からかぶせても文字がきちんと読めるし、素材的にも強度的にも資料への負荷が最小限で済むので、とても重宝するのです。ただし細やかな作業になるので、みなさん多少苦心されたかもしれません。空調の風で和紙がふわふわ浮いて安定しないので、空調を切った作業になりました。暑くてももくもくと、すごい集中力！

和紙を使った修理を体験したところで、八女の和紙がいかに注目されているか、という映像資料を見てもらいました。八女の和紙の存在は知っていても、現状についてはなかなか知らないもの。図書館としてはこの講座が、みなさんのいろんな興味につながるきっかけになったら嬉しいな、と思っているのです。

さて本日の最後は、見返しゆるみの修理です。見返しとは、表紙と裏表紙の内側にある色紙のことで、表紙と本文をつなぐ役割をしています。紙一枚で本の重さを支えているため、しばらくすると本の「のど」と呼ばれる部分の接着がゆるんできます。これをそのままにしておくと、本全体が歪んで割れたりページが外れたり大きな破損につながってしまうので、早期の修理が大切なのです。どの修理も、失敗するとさらに別の破損を引きおこす可能性があるため、慎重に慎重を重ねて進めていただきました。さて出来栄のほどは！？すぐに仕上がりを確認できないのが、もどかしいですね。

帰り際の「あっというまの2時間やった～！」という受講生の声に、充実した時間になっているのかな、と安堵する職員でした。

